

第3次「スポ柳都にいがた」プラン前期実施計画 令和7年度 進行管理調書

基本方針		施策指標	R6年度 実 績	R7年度 目 標	R7年度 実 績 (前年度比)	評価	達成(未達成)理由・今後の方向性	新潟市スポーツ推進審議会 評価(ご意見・ご要望等)
生涯スポーツ 社会の 実現	(1) 誰もが参 加できるス ポーツの 機会創出	1 卒業後にも運動やスポーツをしたいと思う児童の割合(小5)	88.5%	88.1%	84.8% (△3.7%)	未達成	スポーツ施設の運営、スポーツに親しむ体験機会の提供や親子観戦招待など様々な取り組みを進めたが、目標を達成することができなかった。	
		2 卒業後にも運動やスポーツをしたいと思う生徒の割合(中2)	84.4%	85.6%	81% (△3.4%)	未達成	スポーツ施設の運営、スポーツに親しむ体験機会の提供や親子観戦招待など様々な取り組みを進めたが、目標を達成することができなかった。この年代におけるスポーツとの繋がり、将来の運動習慣に繋がる機会として、これまで部活動が重要な役割を担ってきたと認識している。部活動の地域展開が今後も円滑に進むよう、引き続き教育委員会をはじめとする関係機関と連携し、中学生がスポーツに親しむ機会や環境づくりに取り組んでいく。	
		3 週1日以上スポーツをする30・40代の市民の割合	39.3%	51.9%	40.3% (+1%)	未達成	新潟シティマラソンや早起き野球大会を開催するなど、大会やイベントによるスポーツ機会の提供に努め、前年度比で実績値を向上させることはできたが、目標達成には至らなかった。現役・子育て年代でも、日常の中で体を動かすきっかけになる取り組みを引き続き進めるとともに、日頃の運動のモチベーションにつながるような魅力ある大会、イベントの開催や、冬季でも楽しめ、また親子で行える水上スポーツ、市民綱引き大会といった事業の展開を通じ、この年代のスポーツ実施率向上を図っていく。	
		4 週1日以上スポーツをする65歳以上の市民の割合	54.4%	59.3%	55.0% (+0.6%)	未達成	前年度比で実績値を向上させることはできたが、目標に届かなかった。シニア層向け事業の検討とともに、スポーツ施設の環境整備、最新の情報発信などに努め、安心してスポーツができる環境を整えることで、この年代のスポーツ実施率向上を図っていく。	
	(2) スポーツを 支える環境 づくり	5 スポーツ施設利用者数	351万人	303万人	336万人 (△15万人)	達成	東総合スポーツセンター等改修工事に伴う休館により前年度比で減少したものの、スポーツ施設の各区所管課、指定管理者や関係機関と連携しながら利用促進を図った結果、目標を達成することができた。	
		6 スポーツに関する情報発信が足りないと感じる市民の割合	32.5%	34.4%	23.7% (△8.8%)	達成	市民が様々なスポーツ活動に参加しやすくなるよう、スポーツ施設の利用イベント、スポーツ団体の情報などを広報紙やホームページ、SNSなど幅広い媒体を通じて発信し、目標を達成することができた。今後も、各種大会、イベントの情報はもちろん、休館や工事が予定されている施設についても、適切に情報発信していく。	
競技力の向 上、人材育成 の推進	(1) 選手・指導 者の育成	7 市内小中高生への全国大会等出場激励金支給件数	133件	109件	166件 (+33件)	達成	全国大会、国際大会への出場数増加の傾向が続いており、昨年度を上回る実績で目標も達成できた。引き続き、ジュニアの競技力強化などに取り組んでいく。	
		8 スポーツ指導者研修会参加者数	83人	100人	36人 (△47人)	未達成	市とスポーツ協会が行う研修会について、今後の研修会の位置づけや方針を検討するため、令和7年度の市主催研修会を休止したため、目標を達成することができなかった。検討の結果、令和8年度以降の市主催研修会を廃止することとした。今後は、指導者の育成・資質向上につながる研修内容となるよう、スポーツ協会の指導者研修会について、市が企画立案の段階から連携し、事業の推進を図っていく。	
		9 障がい者スポーツ全国大会等参加激励金支給件数	23件	7件	27件 (+4件)	達成	前年度を上回る実績値で目標を達成できた。今後も全国障害者スポーツ大会への新潟市選手団派遣などを通じ、障がい者の競技スポーツへの志向意欲向上、積極的な社会参加の促進に寄与していく。	
スポーツを活 かした まちづくり	(1) スポーツを 通じた交流 の推進	10 主要スポーツイベント参加者数(新潟シティマラソン、新潟シティライド、新潟ヒルクライムのエントリー数)	12,037人	13,750人	13,016人 (+979人)	未達成	新潟シティマラソンでは、コロナ禍以降初めて総定員を上回った。一方で、自転車イベントが参加者数や運営に携わる人材の減少に伴い廃止されたことにより、全体としては目標を達成することができなかった。しかしながら、マラソンは新たに海外向けエントリーサイトやふるさと納税枠を導入するなど、参加機会の拡充や広報の強化を図ったことで県外・海外からの参加者が過去最高を記録した。今後も、マラソン実施後のアンケート結果なども踏まえ、引き続き大会イベントの魅力向上に取り組むことで、次年度の目標達成を図っていく。	
	(2) スポーツの 魅力を活 かした愛着 の醸成と賑 わいづくり	11 主要スポーツイベント観戦者数(ホームタウンチームのホーム戦※の1試合あたり観戦者数) ※サッカー アルビレックス新潟、アルビレックス新潟レディース	24,192人	19,500人	24,964人 (+772人)	達成	地元プロスポーツチームと連携し、親子観戦招待や小中学生を対象としたスポーツ教室・指導者派遣を通してスポーツへの機運醸成を図り、目標を達成することができた。	
		12 主要スポーツイベント参加者数(新潟シティマラソン、新潟シティライド、新潟ヒルクライムのエントリー数)	12,037人	13,750人	13,016人 (+979人)	未達成	新潟シティマラソンでは、コロナ禍以降初めて総定員を上回った。一方で、自転車イベントが参加者数や運営に携わる人材の減少に伴い廃止されたことにより、全体としては目標を達成することができなかった。しかしながら、マラソンは新たに海外向けエントリーサイトやふるさと納税枠を導入するなど、参加機会の拡充や広報の強化を図ったことで県外・海外からの参加者が過去最高を記録した。今後も、マラソン実施後のアンケート結果なども踏まえ、引き続き大会イベントの魅力向上に取り組むことで、次年度の目標達成を図っていく。	

基本方針1 生涯スポーツ社会の実現

(1) 誰もが参加できるスポーツの機会創出

◆ 基本方針の内容

○子どもから高齢者まで障がいの有無にかかわらず、誰もが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことができる取り組みを推進します。

○気軽にスポーツに親しみながら体力の向上や運動の習慣化に取り組んでもらえるよう、大会の運営や各種スポーツ教室の開催などに、トップアスリートや関係団体とも連携しながら取り組みます。

◆ 施策指標

	指標名	目標(令和5年度)	目標(令和6年度)	目標(令和7年度)	目標(令和8年度)
		実績(令和5年度)	実績(令和6年度)	実績(令和7年度)	実績(令和8年度)
I	卒業後にも運動やスポーツをしたいと思う児童の割合(小5)	87.3%	87.7%	88.1%	88.5%
		87.5%	88.5%	84.8%	
II	卒業後にも運動やスポーツをしたいと思う生徒の割合(中2)	83.8%	84.7%	85.6%	86.5%
		80.7%	84.4%	81.0%	
III	週1日以上スポーツをする30・40代の市民の割合	46.6%	49.3%	51.9%	54.5%
		38.9%	39.3%	40.3%	
IV	週1日以上スポーツをする65歳以上の市民の割合	57.1%	58.2%	59.3%	60.5%
		58.1%	54.4%	55.0%	

基本方針1 生涯スポーツ社会の実現

(1) 誰もが参加できるスポーツの機会創出

① 子どものスポーツ推進	5:計画・目標を上回った 4:計画・目標を少し上回った 3:計画・目標とおり達成 2:計画・目標を少し下回った 1:計画・目標を大きく下回った 0:評価不能
○生涯にわたってスポーツに親しみ豊かな生活を実現していくための基礎作りとして、幼児期から、いかに楽しく遊びを通して運動を体験していくかが重要です。	
○スポーツの体験やきっかけづくり、成果を発揮できる機会の充実など関係団体と連携しながら取り組みます。	
○子どもたちがさまざまな他者と関わり、その存在と頑張りを認めてくれる環境は重要であり、学校や地域コミュニティや家庭の関わりの中で、気軽にスポーツに親しみ楽しみながら体力向上、自ら興味や関心を持ち運動の習慣化につながるよう施策を展開します。	

◆ 主な事業

事業名		事業概要	対応する施策指標	R7計画・目標	R7実績	自己評価	理由・要因	R8計画・目標	担当
1	子どもスポーツふれあい促進事業	小学生を対象にしたサッカー教室の開催、中学生とその指導者に対して地元プロ選手から指導等を実施してもらい、心身の健全育成と競技力・技術力等の向上を図ります。	I、II	サッカー教室参加者数 300人 サッカー指導者派遣数 90人	サッカー教室参加人数 342人 サッカー指導者派遣人数 95人	4	サッカー教室については、隣接する2区合同での開催とし、申込人数439名、参加人数342名と想定を大きく上回った。また、公式戦と同日開催とすることで、「観るスポーツ」との相乗効果を図ることができた。指導者派遣については、中長期的な指導体制に加え、地域クラブへの移行も考慮したクラブチームへの派遣回数も増加したことにより、現状に適した派遣活動を実施したことで、計画より微増した。	サッカー教室参加者数 300人 サッカー指導者派遣数 94人	スポーツ振興課
2	氷上スポーツ体験学習推進事業	新潟市アイスアリーナで小学生等に氷上スポーツを体験させることで氷上スポーツ愛好者の裾野拡大を図るため、市内小学校等の校外活動時のバス送迎に係る経費と施設利用料金を助成します。	I	実施校数64校	実施校数 小学校60校 保育園等54園	5	申込状況に応じて追加募集を行い、前年度と同程度の小学校及び保育園等の実施校数を維持することができた。	実施校数64校	スポーツ振興課
3	少年少女スポーツ大会の開催	児童の育成健全を目的として、昭和40年に始まり、令和5年度で59回を迎えます。大会を通じて心身の健康づくりと相互の親睦、コミュニケーション能力の育成が図られています。 競技:野球・サッカー・バスケットボール・バレーボール	I	エントリーチーム数 野球:60チーム サッカー:70チーム バスケ:120チーム バレー:30チーム	エントリーチーム数 野球:60チーム サッカー:82チーム バスケ:124チーム バレー:26チーム	4	チーム数は昨年度に比べ10減少したが、内訳の参加者数は20名増加している。指導者減少により。クラブへ集中化している現状を考慮し、市内小学生のスポーツ活動を通じた心身の健康づくりと児童の相互親睦に大きく寄与することができた。	エントリーチーム数 野球:60チーム サッカー:70チーム バスケ:120チーム バレー:30チーム	スポーツ振興課
4	氷上スポーツイベント開催事業	新潟市アイスアリーナの愛称を命名する権利を企業等に与えることで、企業名やブランド名等の広告機会を提供し、これにより得られる対価(命名権料)を財源に、氷上スポーツの普及を促進するイベントを開催します。また、全国の選手を中心とした競技会等を開催し、フィギュアスケートの発展と技術レベルの向上を目指します。	I	競技会参加者数 180人	アイスアリーナトロフィー参加者 153人	2	前年度より競技参加者数が増加し、2日間から3日間開催に変更する等、着実にフィギュアスケートの発展と技術レベルの向上に寄与しているものの、目標を達成することはできなかった。	競技会参加者数 180人	スポーツ振興課
5	(公財)新潟市スポーツ協会補助金 体験会等推進事業	スポーツの普及振興を目的に、多くの子どもたちからスポーツに親しんでもらうため、気軽に参加できる体験教室等を通じて、子どもやその保護者に身体を動かす楽しさを伝えることにより、スポーツの裾野を広げることを目的に、加盟団体が実施する事業に対して経費の一部を補助します。	I	-	既存事業に統合	0	事業整理の結果、他事業に統合、廃止。	実施種目10	(公財)新潟市スポーツ協会
6	体力向上ジャンプアップ事業	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果や子どもたちの実態から、学校ごとに体力や健康に関する課題を設定し、その解決を目指して指導方法を工夫したり委員会活動等とタイアップしたりして、学校独自の体力向上の取組を行います。	I、II	すべての小・中・中等教育学校等の取組を諸観点で類別し学校別に集約。情報提供。	すべての小・中・中等教育学校等の取組を集約し、各学校に情報提供を行った。	3	各学校の体力向上計画(ジャンプアップ)を集約し、各学校へ周知を図った。	すべての小・中・中等教育学校等の取組を諸観点で類別し学校別に集約。情報提供。	学校支援課

基本方針1 生涯スポーツ社会の実現

(1) 誰もが参加できるスポーツの機会創出

②働き盛り・子育て世代のスポーツ推進

○仕事や家事、育児が忙しくなる働き盛り・子育て世代のスポーツ実施率は、他の年代に比べて低い傾向があります。自分に合った健康保持・増進の方法を具体的に知り、日常生活の中でできる取り組みを取り入れ、生活習慣病の予防、生涯を通じた健康保持・増進が重要です。スポーツをする楽しさや運動することの重要性に気付いてもらい、楽しみながら運動を継続できるよう、気軽に参加できるプログラムを充実するとともに、身近な場所で運動・スポーツに取り組める機会を提供します。

○また、20～30代の女性のスポーツ実施率は男性に比べて低い傾向があります。生涯にわたって楽しむことができる環境づくり、及び女性のスポーツへの参加促進策の検討に取り組めます。

- 5:計画・目標を上回った
4:計画・目標を少し上回った
3:計画・目標とおり達成
2:計画・目標を少し下回った
1:計画・目標を大きく下回った
0:評価不能

◆ 主な事業

事業名		事業概要	対応する施策指標	R7計画・目標	R7実績	自己評価	理由・要因	R8計画・目標	担当
7 再掲 25 再掲 26	ウォーキングチャレンジ事業	働き盛り世代の運動習慣定着を図るため、事業所内でチームを組んで参加し、参加者自ら歩数を記録することを通して、歩く機会や歩数の増加にチャレンジします。また、健康づくりのきっかけとなるよう市民を対象としたウォーキングチャレンジを実施します。	Ⅲ、Ⅳ	参加事業所数:前年度より増加 参加者数(事業所・市民合計):6,700人	参加事業所数:337事業所 参加者数:12,119人	5	使用するアプリの登録者数が増え、本イベントの認知度も上がり、参加事業所数・参加者数共に目標以上に伸びた。	参加事業所数:前年度より増加 参加者数(事業所・市民合計):7,000人	健康増進課
	スポーツ振興課ホームページの運用(再掲)	スポーツに関する施設、大会・イベント、団体などの情報について、市民への情報提供を行います。	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	アクセス数 720,000件 ↓ (変更)600,000件 ※HP集計システムの変更を受けて変更	約517,000件	2	スポーツ施設の料金改定の影響によるアクセスが落ち着き、前年度よりアクセス数が減少したものの、市報やSNS等多様な手段で情報提供を行った。	アクセス数 600,000件	スポーツ振興課
	(公財)新潟市スポーツ協会補助金 広報活動事業(再掲)	(公財)新潟市スポーツ協会及び協会加盟団体等の取り組みや活動内容について、スポーツの普及・振興ならびに市民から関心や理解を得るために、広報誌の発行やホームページによる情報発信を行います。	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	広報誌発行 ホームページ改修・運営	広報誌発行 ホームページ運営	2	広報誌は3,000部を発行するほか、電子版の作成を行ったが、ホームページの改修については次年度に先送りしたため。	広報誌発行 ホームページ運営	(公財)新潟市スポーツ協会

基本方針1 生涯スポーツ社会の実現

(1) 誰もが参加できるスポーツの機会創出

③高齢者のスポーツ推進	5:計画・目標を上回った 4:計画・目標を少し上回った 3:計画・目標とおり達成 2:計画・目標を少し下回った 1:計画・目標を大きく下回った 0:評価不能
○本市の健康寿命は、全国同様、男女ともに伸びている一方で、平均寿命と健康寿命には差があることから、健康上の問題で日常生活が制限される「健康でない期間」を短くすることが重要です。	
○生涯にわたって健康を保持・増進していくために、日常生活で無理なく気軽に身体を動かし楽しみながら取り組める施策を推進します。	

◆ 主な事業

	事業名	事業概要	対応する施策指標	R7計画・目標	R7実績	自己評価	理由・要因	R8計画・目標	担当
8	シニアはつらつにいがた総おどり事業	本市の踊り文化を生かして制作した「総おどり体操」について、講習会や指導者養成講座の開催、指導スタッフの派遣、「にいがた総おどり」などの各種イベントへの参加を実施します。	Ⅳ	講習会等参加者数 延7,985人	講習会等参加者数 延7,323人	2	近年参加者が固定化し、新規参加者が減少傾向にある。SNS(LINE)での広報に力を入れ、新規者の増加に努める。	講習会等参加者数 延8,755人	高齢者支援課
9	全国健康福祉祭事業	にいがたねりんピック等により選考した団体・個人が新潟市代表として全国健康福祉祭(ねりんピック)に参加します。	Ⅳ	派遣人数 74人	派遣人数 88人	4	近年参加していなかったソフトボールやラグビーフットボールなど団体競技の参加があったため、参加者数が増加した。	派遣人数 81人	高齢者支援課

④障がい者スポーツの推進
○市は、障がいの有無にかかわらず、全ての市民が互いに人格と個性を尊重しあいながら、安心して暮らすことのできる共生社会を目指しています。
○障がいの有無にかかわらず、誰でも楽しめる障がい者スポーツの普及・促進を図るとともに、障がいのある方が身近な場所で自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、関係団体と連携しながら取り組みます。

◆ 主な事業

	事業名	事業概要	対応する施策指標	R7計画・目標	R7実績	自己評価	理由・要因	R8計画・目標	担当
10	「目指そう、支えようパラリンピアン」障がい者スポーツ推進事業	共生社会の実現、障がい者が自主的かつ積極的にスポーツに取り組むきっかけや競技力の向上及び障がいの理解促進のため、パラリンピアンによる講演会や障がい者スポーツの体験会を開催します。 また、障がい者スポーツの普及促進のため、競技用具の貸出事業を実施します。 併せて、障がい者スポーツのナショナルチームによる合宿を誘致・支援します。	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	講演会・体験会の参加者数 30人	講演会・体験会の参加者数 224人	5	こうなんふれ愛まつりにおいて、フライングディスク(ストラックアウト)体験会を開催したことで、障がいの有無や世代を問わず、幅広い層の参加があったため。	講演会・体験会の参加者数 35人	スポーツ振興課
11	新潟市障がい者大運動会	障がいのある人もない人も一緒にスポーツやレクリエーションを行うことを通じ、障がいのある人の社会参加を促進し、障がいや障がいのある人への理解を深めるため「新潟市障がい者大運動会」を開催します。	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	開催について再検討	実行委員会(R7.9.11とR8.2.12の2度開催)及び事業所への意向調査を実施	3	人員不足や送迎等、多くの課題があるため、事業廃止に向けて検討したが、事業所への意向調査を踏まえ、R8年度内にR9年度以降の方針を決定する。	未定	障がい福祉課

基本方針1 生涯スポーツ社会の実現

(1) 誰もが参加できるスポーツの機会創出

⑤スポーツイベント・教室の充実開催		5:計画・目標を上回った 4:計画・目標を少し上回った 3:計画・目標とおり達成 2:計画・目標を少し下回った 1:計画・目標を大きく下回った 0:評価不能
○スポーツイベントは、参加者の健康の保持・増進はもとより、市民との交流や地域の活性化にも大きく貢献します。		
○地域で気軽に参加できるものから、新潟シティマラソンなど全国規模の大会まで、市民のニーズを把握しながら積極的に開催するほか、トップアスリートや関係団体と連携し、これまで参加したことがない人へのきっかけづくりや、スポーツへの興味・関心を高め、スポーツ参画人口を増やすよう取り組みます。		

◆ 主な事業

事業名		事業概要	対応する施策指標	R7計画・目標	R7実績	自己評価	理由・要因	R8計画・目標	担当
再掲 1	子どもスポーツふれあい促進事業 (再掲)	小学生を対象にしたサッカー教室の開催、中学生とその指導者に対して地元プロ選手から指導等を実施してもらい、心身の健全育成と競技力・技術力等の向上を図ります。	I、II	サッカー教室参加者数 300人 サッカー指導者派遣数 90人	サッカー教室参加人数 342人 サッカー指導者派遣人数 95人	4	サッカー教室については、隣接する2区合同での開催とし、申込人数439名、参加人数342名と想定を大きく上回った。また、公式戦と同日開催とすることで、「観るスポーツ」との相乗効果を図ることができた。指導者派遣については、中長期的な指導体制に加え、地域クラブへの移行も考慮したクラブチームへの派遣回数も増加したことにより、現状に適した派遣活動を実施したことで、計画より微増した。	サッカー教室参加者数 300人 サッカー指導者派遣数 94人	スポーツ振興課
	12 新潟シティマラソンの開催	フルマラソン、ファンランに加え、年齢や障がいの有無に関わらず参加できる種目、ユニバーサルランを実施することで、市民の健康保持・増進を図ります。また、萬代橋や砦谷小路などの市街地や新潟ならではの水辺を望めるコースとすることで、本市の魅力発信や交流人口の拡大を図ります。	I、II、III、IV	エントリー者数 ・マラソン:9,000人 ・ファンラン:3,000人 ・ユニバーサルラン :400人	エントリー者数 ・マラソン:8,448人 ・ファンラン:4,017人 ・ユニバーサルラン :551人	4	佐渡トキマラソンとの連携を継続するとともに、新たに海外向けエントリーサイトやふるさと納税枠を導入するなど、参加機会の拡充や広報の強化を図ったことで目標を達成することができたため。 (県外・海外からの参加者は過去最高を記録)	エントリー者数 ・マラソン:9,000人 ・ファンラン:3,000人 ・ユニバーサルラン :400人	スポーツ振興課
	13 早起き野球大会の開催	早起き野球を通して、市民が積極的にスポーツに親しみ、スポーツ振興と相互の親睦を図ることにより、豊かな社会生活に寄与することを目的に開催します。 種目:1部・2部・3部・壮年1部・壮年2部 の計5種目	III、IV	エントリーチーム数 100チーム	エントリーチーム数 79チーム	2	早起き野球後の会社までの通勤時間が間に合わないことや野球人口の減少、チーム員の高齢化などにより想定を下回ったもの。	エントリーチーム数 100チーム	スポーツ振興課
	14 自転車活用事業	新潟シティライド、新潟ヒルクライムを開催し、自転車を活用しながらスポーツの振興に寄与するとともに、市民の健康保持・増進、交流人口の拡大を図ります。	I、II、III、IV	【シティライド】 大会休止(予定) 【ヒルクライム】 大会休止(予定)	大会廃止	0	自転車活用事業として、シティライドやヒルクライムを開催してきたが、年々参加者が減少傾向にあるほか、実行委員会や競技運営に携わる人材も減少するなど、体制を維持、継続することが困難となったため。	【シティライド】 エントリー者数 ロングライド:600人 ミドルライド:100人 ショートライド:50人 【ヒルクライム】 エントリー者数 600人	スポーツ振興課
15	(公財)新潟市スポーツ協会補助金 スポーツ大会等開催事業	「市民総合体育祭」、「市民サッカー大会」、「市民綱引き大会」、「市民親善ゴルフ大会」、「スポーツ体験フェスタ」を開催し、市民の健康増進、参加者相互の親睦、スポーツの裾野拡大を図ります。	I、II、III、IV	【体育祭】 開催種目数 春季:25種目 秋季:35種目 【サッカー大会】 エントリー数:44チーム 参加者数:600人 【綱引き大会】 エントリー数: 一般の部28チーム 小学生の部52チーム 【スポーツ体験フェスタ】 参加者数:1,000人(延べ) 体験種目数:20種目	【体育祭】 開催種目数 春季:25種目 秋季:29種目 【サッカー大会】 エントリー数:40チーム 参加者数:550人 【綱引き大会】 エントリー数: 一般の部29チーム 小学生の部49チーム 【スポーツ体験フェスタ】 参加人数:1,192人(延べ) 体験会種目数:17種目	3	秋季体育祭は、天候不良による中止種目があったものの、各種大会の目標は概ね達成できた。スポーツ体験フェスタについては、子どもが様々なスポーツに触れられるようスタンプラリーや縁日などを盛り込んだことで、延べ参加者数が増加した。	【体育祭】 開催種目数 春季:25種目 秋季:30種目 【サッカー大会】 エントリー数:60チーム 参加者数:800人 【綱引き大会】 エントリーチーム数 一般の部:28チーム 小学生の部:52チーム 【スポーツ体験フェスタ】 参加者数:1,000人(延べ) 体験種目数:20種目	(公財)新潟市スポーツ協会

基本方針1 生涯スポーツ社会の実現

(1) 誰もが参加できるスポーツの機会創出

⑥暮らしの中での健康づくり

○生涯スポーツ社会を実現するためには、スポーツの持つ「健康に良い」という価値を、実践することで高め、それを習慣づけることが大切です。

○ウォーキングやジョギング、ランニングをはじめ、通勤や通学など日常の暮らしの中で、自然と体を動かし、健康になれるまちづくりを推進します。

5:計画・目標を上回った
4:計画・目標を少し上回った
3:計画・目標とおり達成
2:計画・目標を少し下回った
1:計画・目標を大きく下回った
0:評価不能

◆ 主な事業

	事業名	事業概要	対応する施策指標	R7計画・目標	R7実績	自己評価	理由・要因	R8計画・目標	担当
16	公共交通の強化及び利用促進	過度な自動車利用から公共交通利用への転換を図り、公共交通利用による外出機会の増加を促す施策を展開します。	Ⅲ、Ⅳ	市民一人当たりの バス利用回数 26回／人・年 ※総合計画等で掲げている指標に修正	市民一人当たりの バス利用回数 26回/人・年	3	運行事業者と協働で、バスの新たな需要喚起策※を継続的に実施したことにより、目標達成に寄与したと考えている。 ※未来に向けたバス利用促進事業、バスでおでかけキャンペーン事業	市民一人当たりの バス利用回数 26回／人・年 ※総合計画等で掲げている指標に修正	都市交通政策課
17	にいがた2kmシェアサイクル	まちなかの回遊性向上や公共交通の補完等を目的に、運営事業者と協働でシェアサイクルを運用します。	Ⅲ、Ⅳ	回転率 1.55回転／日	回転率 1.93回転/日	5	利用状況に応じたポートの移設とともに、運営方法の見直しにより運営の安定化を図り、着実な利用促進につながったことが目標達成に寄与したと考えている。	回転率 1.75回転／日	都市交通政策課

基本方針1 生涯スポーツ社会の実現

(2)スポーツを支える環境づくり

◆ 基本方針の内容

○スポーツと地域の関わり、スポーツの多様化や少子化による影響など、取り巻く環境の変化に対応しながら、関係者と共にスポーツ環境の充実や指導者の育成など、ハード・ソフト両面から市民のスポーツ活動を支えます。

○医科学など関連分野との連携も踏まえながら、スポーツ実施や健康増進に資する取り組みを推進します。

◆ 施策指標

指標名	目標(令和5年度)	目標(令和6年度)	目標(令和7年度)	目標(令和8年度)
	実績(令和5年度)	実績(令和6年度)	実績(令和7年度)	実績(令和8年度)
I スポーツ施設利用者数	272万人	288万人	303万人	318万人
	325万人	351万人	336万人	
II スポーツに関する情報発信が足りないと感じる市民の割合	38.2%	36.3%	34.4%	32.5%
	32.4%	32.5%	23.7%	

基本方針1 生涯スポーツ社会の実現

(2)スポーツを支える環境づくり

①スポーツを支える組織(スポーツ推進委員・スポーツ振興会・スポーツ少年団・スポーツボランティア等)の育成・支援								
○市民が気軽にスポーツに親しみ楽しむためには、身近な地域でスポーツに取り組める環境の整備が重要です。スポーツ推進委員やスポーツ振興会、スポーツ少年団等の地域のスポーツ組織は、市民が生涯にわたってスポーツに参加できる基盤となるとともに、地域社会の再生においても重要な意義を持つものと考えられます。 ○市民が主体的に参画する地域のスポーツを支える組織及びスポーツボランティア等の育成・支援に取り組み、スポーツを地域に根付かせ、自主的なスポーツ活動を活性化させていくほか、スポーツ活動を支えるスタッフ・ボランティアの必要性や活動内容を市民に周知し、活動機会の拡充に取り組みます。								
5:計画・目標を上回った 4:計画・目標を少し上回った 3:計画・目標とおり達成 2:計画・目標を少し下回った 1:計画・目標を大きく下回った 0:評価不能								

◆ 主な事業

事業名		事業概要	対応する施策指標	R7計画・目標	R7実績	自己評価	理由・要因	R8計画・目標	担当
18	スポーツ推進委員の活動推進	スポーツ振興会など地域におけるスポーツ活動の企画・調整役を担い、新潟シティマラソンをはじめとする全市的事業において役員として活動する、スポーツ推進委員(各小学校区に数名が配置されており、令和3年4月現在257名が活動)の資質向上を目的に、各種研修会を開催します。	—	研修会開催数 2回 参加者数 計200人	研修会開催数 2回 参加者数 計188人	2	研修会は計画どおり実施したが、委員全体数の減少による参加者数の減少などが影響したため。	研修会開催数 2回 参加者数 計200人	スポーツ振興課
19	スポーツ振興会の育成・支援	地域での「生涯にわたるスポーツ活動の推進」の要であるスポーツ振興会において、組織の中心的な役割を担うスポーツ推進委員等を対象に、資質向上や的確な能力を身に付けるための研修会を開催するなどスポーツ振興会の育成・支援を行います。	—	研修会開催数 1回 参加者数 160人	研修会開催数 1回 参加者数 115人	2	研修内容については、今後のスポーツ推進委員の活動指針につながる講演会を企画・実施したが、委員全体数の減少による参加者数の減少などが影響したため。	研修会開催数 1回 参加者数 160人	スポーツ振興課
20	スポーツボランティアの育成	新潟シティマラソンをはじめ各種スポーツイベントに必要な人材を発掘・養成します。	—	シティマラソン学生・企業・一般公募ボランティア数 600人	714人	4	学生ボランティアの参加人数が増加したため。	シティマラソン学生・企業・一般公募ボランティア数 600人	スポーツ振興課
21	(公財)新潟市スポーツ協会補助金 スポーツ少年団育成	スポーツ少年団の普及育成及び活性化を図り、青少年の健全育成に資するため、登録業務や大会等の事業を実施します。	—	登録団数 86団体	登録団数 83団体	2	更新制の指導者資格義務化や少子化等により単位団数は減少傾向にある。	登録団数 83団体	(公財)新潟市スポーツ協会

②市民から愛される指導者の養成								
○生涯スポーツ社会を実現するためには指導者の育成、資質向上の取り組みが不可欠です。運動をする人の喜びや感動を自分のことのように感じ、心や身体の痛みも感じ取れる感受性を持ち、常に指導内容・方法を工夫・改善する努力を怠らない研究心を備え、市民を愛し市民から愛される指導者を養成します。								

◆ 主な事業

事業名		事業概要	対応する施策指標	R7計画・目標	R7実績	自己評価	理由・要因	R8計画・目標	担当
再掲36	新潟市「スポ柳都にいがた」指導員養成研修会(再掲)	子ども達がスポーツ・レクリエーション活動を通し、豊かな心を育み、生涯に渡って身体を動かすことの楽しさや喜びを提供できる指導者・支援者としての資質の向上を図ります。	—	参加者数 100人	参加者数 36人	0	各競技団体において有資格者が充足してきたことにより、少年少女スポーツ大会の参加資格の取得を目的とした受講者が減少傾向にあったことから、今後の研修会のあり方を検討する必要性が生じ、市主催の研修会を休止したため。	参加者数 100人	スポーツ振興課
再掲37	(公財)新潟市スポーツ協会補助金 スポーツ指導者研修会(再掲)	本市の競技力の向上を図るため、ジュニア強化に携わる指導者や関係者など市民を対象とした講習会を開催します。	—	講習会1シリーズ(全5回)	講習会開催数 6回	4	新潟スポーツ医科学コンソーシアムを活用し、安全管理をテーマに女性スポーツを新たに加えた全6回シリーズの一貫したカリキュラムを開催したため。	講習会開催数 6回	(公財)新潟市スポーツ協会

基本方針1 生涯スポーツ社会の実現

(2)スポーツを支える環境づくり

③スポーツ施設の整備・改修、施設利用環境の充実	
○市民にとって身近なスポーツ施設の整備を進めてきた結果、本市の人口当たりの施設数は、政令指定都市の中でも多く、市民の誰もが気軽にスポーツを楽しむことができます。	
○一方、これらのスポーツ施設の維持管理に必要な経費が増加しているほか、老朽化が進んでいる施設もあります。民間活力の導入等も踏まえ、本市の拠点性を活かしたスポーツ施設のあり方を検討するとともに、サービス機能を維持しながら、安全・安心に利用していただけるよう、利用環境の充実に取り組みます。	5:計画・目標を上回った 4:計画・目標を少し上回った 3:計画・目標とおり達成 2:計画・目標を少し下回った 1:計画・目標を大きく下回った 0:評価不能

◆ 主な事業

	事業名	事業概要	対応する施策指標	R7計画・目標	R7実績	自己評価	理由・要因	R8計画・目標	担当
22	スポーツ施設管理運営委託費	指定管理者制度により所管するスポーツ施設の管理運営を行います。	I	施設利用者数 3,030,000人	施設利用者数 3,364,855人	5	指定管理制度により所管するスポーツ施設の管理運営を行い、各区所管課、指定管理者や関係機関と情報交換・連携しながらスポーツ施設の利用促進を図った。	施設利用者数 3,180,000人	スポーツ振興課
23	スポーツ施設の整備・改修方針の検討	スポーツ施設の維持管理に必要な経費が増大しているほか、昭和39年開催の新潟国体に合わせて整備された施設など老朽化が進んでいる施設もあり、大規模な改修や更新、施設の集約化を計画的に行う必要があることから、スポーツ施設の整備・改修方針の検討に取り組みます。	I	「未来構想会議」の提言を参考に、施設再編計画を進めていく。	「未来構想会議」の提言を参考に、施設再編計画を進めた。	3	白山エリアのスポーツ施設再編について、他都市事例や民間事業者との意見交換を基に検討を行い、アリーナの実現に向けて本格的な検討に着手することを決定した。鳥屋野野球場の再整備に向けて、関係者や地域と意見交換を行い、基本計画の策定に取り組んだ。	「未来構想会議」の提言を参考に、施設再編計画を進めていく。	スポーツ振興課

④気軽にスポーツに取り組める情報を発信
○市民がスポーツに気軽に取り組むためには、情報を手軽に入手できる環境づくりが不可欠です。
○市民が様々なスポーツ活動に参加しやすくなるよう、スポーツ施設の利用やイベント、スポーツ団体の情報などを広報紙やホームページ、SNSなどを通じて発信します。

◆ 主な事業

	事業名	事業概要	対応する施策指標	R7計画・目標	R7実績	自己評価	理由・要因	R8計画・目標	担当
24	公共予約システムの運用	市民がいつでも気軽にスポーツ施設を利用できるよう、インターネットによる施設予約システムの充実・運用を図ります。	I、II	システム利用件数 28,700件	システム利用件数 27,636件	2	公共予約システムに関して市HP等で広報・周知を図ったものの、目標に至らなかった。	システム利用件数 30,200件	スポーツ振興課
25	スポーツ振興課ホームページの運用	スポーツに関する施設、大会・イベント、団体などの情報について、市民への情報提供を行います。	II	アクセス数 720,000件 ↓ (変更)600,000件 ※HP集計システムの変更を受けて変更	約517,000件	2	スポーツ施設の料金改定の影響によるアクセスが落ち着き、前年度よりアクセス数が減少したものの、市報やSNS等多様な手段で情報提供を行った。	アクセス数 600,000件	スポーツ振興課
26	(公財)新潟市スポーツ協会補助金 広報活動事業	(公財)新潟市スポーツ協会及び協会加盟団体等の取り組みや活動内容について、スポーツの普及・振興ならびに市民から関心や理解を得るために、広報誌の発行やホームページによる情報発信を行います。	II	広報誌発行 ホームページ改修・運営	広報誌発行 ホームページ運営	2	広報誌は3,000部を発行するほか、電子版の作成を行ったが、ホームページの改修については次年度に先送りしたため。	広報誌発行 ホームページ運営	(公財)新潟市スポーツ協会

基本方針1 生涯スポーツ社会の実現

(2)スポーツを支える環境づくり

⑤子どもを取り巻くスポーツ環境の変化への対応
○中学生などの青少年に対する部活動改革を踏まえ、子どもたちが地域において多種多様なスポーツを安全・安心に実施できるような環境の構築に向けて関係団体と連携しながら取り組みます。

5:計画・目標を上回った
4:計画・目標を少し上回った
3:計画・目標とおり達成
2:計画・目標を少し下回った
1:計画・目標を大きく下回った
0:評価不能

◆ 主な事業

	事業名	事業概要	対応する施策指標	R7計画・目標	R7実績	自己評価	理由・要因	R8計画・目標	担当
27	新潟市の中学生のための地域運動・文化活動整備事業	地域クラブ活動の充実に向け、仕組みの整備、運営団体の充実、指導者の配置支援を実施します。	—	運営団体、指導者の整備、依頼。生徒への紹介。前年度の団体数以上のモデル団体への支援	・本市地域クラブ活動支援事業として161クラブへ支援 ・団体リスト掲載388クラブ ・ジュニア専用枠の整備	4	・多くの団体に支援することができた。 ・団体リストに388クラブが掲載を完了し、中学生の選択肢が増えた。 ・団体リスト掲載地域クラブが優先的に中学校施設を利用できる仕組みを整備できた。	運営団体、指導者の整備、依頼。生徒への紹介。前年度の団体数以上のモデル団体への支援	学校支援課
28	学校開放事業	生涯スポーツの振興を図ることを目的として、学校教育に支障のない範囲内で、市立の学校施設(体育館、武道場等)を開放します。	—	162校で実施 (小105・中55・東特支・明鏡高)	162校で実施 (小105・中55・東特支・明鏡高)	3	能登半島地震の影響を受けた坂井輪中学校を除く162校の開放を実施した。	162校で実施 (小105・中55・東特支・明鏡高)	生涯学習推進課

⑥医科学など関連分野との連携
○子どもから高齢者まで障がいの有無にかかわらず、あらゆる年代、対象が、より安全に安心して、そして効果的にスポーツに取り組むために、医科学などの関連分野と連携し、スポーツを通じた健康増進を推進します。

◆ 主な事業

	事業名	事業概要	対応する施策指標	R7計画・目標	R7実績	自己評価	理由・要因	R8計画・目標	担当
29	(公財)新潟市スポーツ協会補助金	目指せオリンピック！医科学サポート事業	—	競技団体数4団体に加え、医科学支援体制の検討	・競技団体数4団体 ・支援策検討に向けた体力測定や動作分析等の実施	3	計画どおりの団体数で実施できたほか、効果的な支援体制の構築に向けて、試験的な取り組みを行ったため。	競技団体数4団体に加え、医科学支援体制の検討	(公財)新潟市スポーツ協会

基本方針2 競技力の向上、人材育成の推進

(1)選手・指導者の育成

◆ 基本方針の内容

- 新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地となるよう、競技力の向上を推進します。
- 将来の活躍が期待されるジュニア選手の育成・強化や、指導者の育成・資質向上、障がい者の競技スポーツの普及促進を図ります。

◆ 施策指標

	指標名	目標(令和5年度)	目標(令和6年度)	目標(令和7年度)	目標(令和8年度)
		実績(令和5年度)	実績(令和6年度)	実績(令和7年度)	実績(令和8年度)
I	市内小中高生への全国大会等出場激励金支給件数	97件	103件	109件	115件
		125件	133件	166件	
II	スポーツ指導者研修会参加者数	100人	100人	100人	100人
		131人	83人	36人	
III	障がい者スポーツ全国大会等参加激励金支給件数	6件	6件	7件	7件
		20件	23件	27件	

基本方針2 競技力の向上、人材育成の推進

(1)選手・指導者の育成

①ジュニアを主体とした競技力向上施策の推進
○小・中・高校生にとって、競技力の向上への取り組みは、自主性・自立性や克己心、フェアプレーの精神、コミュニケーション能力の育成や思いやりの心を培うなど、人間形成に大きく寄与するものです。また、活躍する選手の姿は、市民に夢や感動、希望や勇気を与えるとともに、本市を国内外にアピールする格好の機会ともなります。
○新潟と世界をつないでくれる礎となる、次世代アスリートの発掘・育成やプロ選手の輩出を目指し、本市の競技力向上を担うスポーツ協会をはじめスポーツ関係団体等との医科学連携を図りながら、新潟から世界に羽ばたく選手の育成を目標に強化活動に取り組みます。

5:計画・目標を上回った
4:計画・目標を少し上回った
3:計画・目標とおり達成
2:計画・目標を少し下回った
1:計画・目標を大きく下回った
0:評価不能

◆ 主な事業

事業名	事業概要	対応する施策指標	R7計画・目標	R7実績	自己評価	理由・要因	R8計画・目標	担当
30	スポーツの国際大会等出場者激励金	I	実施	・国体出場者 209人(38件) （うち小・中・高校生75人） ・国際大会出場者6人(4件) （うち小・中・高校生2人） ・全国大会出場者 581人(124件) （うち小・中・高校生490人） 計 796人（166件） ※いずれも延べ人数	3	国体出場者、全国大会出場者がそれぞれ増加したことにより支給対象者数・件数が増加したため。（昨年比:166人増、33件増）	実施	スポーツ振興課
31	氷上スポーツ選手強化事業	I	実施	実施	3	計画、目標通り実施したため。	実施	スポーツ振興課
32	氷上スポーツ教室事業	I	氷上スポーツ教室事業 実施数 5回	氷上スポーツ教室事業 実施数 6回	4	親子向け、初心者向け等、様々な対象に向けて計画通り講習会等を開催することができた。	氷上スポーツ教室事業 実施数 5回	スポーツ振興課
33	（公財）新潟市スポーツ協会補助金 ジュニア強化事業	I	実施団体数 26 制度の見直し	実施数 26団体 実態把握に向けたヒアリング等	2	計画どおりの団体数で実施したほか、実態把握の調査等に着手したが、制度の見直しまで至らなかったため。	実施団体数 26 制度の見直し	（公財）新潟市スポーツ協会
34	にいがたスーパージュニア育成事業	I	実施団体数 4 制度の再設計	育成事業数 4事業 政令市への事例調査実施	2	計画どおりの団体数で実施したほか、政令市への事例調査を行ったが、制度の再設計まで至らなかったため。	実施団体数 4 制度の再設計	（公財）新潟市スポーツ協会

②指導者の育成、資質向上の取り組み
○子どもたちにはスポーツに取り組むことで、技術の向上だけでなく、楽しさや喜び、心の豊かさや生きがいを感じてもらい、指導者は子どもたちの発育・発達・技能レベルや志向に立脚し、活動におけるマナーやエチケットに関する指導を行いながら子どもたちとの良好な関係を構築することが求められます。
○我が国におけるスポーツ指導体制は、日本スポーツ協会や加盟競技団体が公認スポーツ指導者として地域レベルからトップレベルまでさまざまな対象に応じた指導者を養成しています。本市における指導者の育成・資質向上の取り組みは、その補完的な役割を果たすとともに、スポーツ活動を通じ、豊かな心を育み、生涯に渡って身体を動かすことのできる楽しさや喜びを提供できる質の高い指導者の育成、支援を目指すこととします。

◆ 主な事業

事業名	事業概要	対応する施策指標	R7計画・目標	R7実績	自己評価	理由・要因	R8計画・目標	担当
35	スポーツと音楽功労者表彰事業	—	実施	実施	3	文化政策課と連携し、予定通り実施することができた。	実施	スポーツ振興課
36	新潟市「スポ柳都にいがた」指導員養成研修会	II	参加者数 100人	参加者数 36人	0	各競技団体において有資格者が充足してきたことにより、少年少女スポーツ大会の参加資格の取得を目的とした受講者が減少傾向にあったことから、今後の研修会のあり方を検討する必要性が生じ、市主催の研修会を休止したため。	参加者数 100人	スポーツ振興課
37	（公財）新潟市スポーツ協会補助金 スポーツ指導者研修会	II	講習会1シリーズ(全5回)	講習会開催数 6回	4	新潟スポーツ医科学コンソーシアムを活用し、安全管理をテーマに女性スポーツを新たに加えた全6回シリーズの一貫したカリキュラムを開催したため。	講習会開催数 6回	（公財）新潟市スポーツ協会

基本方針2 競技力の向上、人材育成の推進

(1)選手・指導者の育成

③障がい者の競技スポーツ推進
○東京2020パラリンピック競技大会で本市ゆかりの選手が活躍するなど、障がい者スポーツに対する人々の関心が広がり、競技スポーツとしての強化と普及を図られることが期待されています。
○障がい者スポーツに関わる関係団体、医科学関係者、既存のスポーツ団体が連携し、競技スポーツの推進に取り組みます。

5:計画・目標を上回った
4:計画・目標を少し上回った
3:計画・目標とおり達成
2:計画・目標を少し下回った
1:計画・目標を大きく下回った
0:評価不能

◆ 主な事業

	事業名	事業概要	対応する施策指標	R7計画・目標	R7実績	自己評価	理由・要因	R8計画・目標	担当
38	障がい者スポーツ全国大会等参加激励金	障がい者の競技スポーツへの志向意欲を高めるとともに、積極的な社会参加を促進するため、障がい者スポーツの全国大会等に出場する選手に激励金を支給します。	Ⅲ	実施	・全国障がい者スポーツ大会出場者 19人(19件) ・上記以外の国際大会・全国大会出場者 28人(8件) 計47人(27件) ※いずれも延べ人数	3	支給対象者数・件数ともに昨年度を上回り、目標を達成したため(昨年比:15人増、4件増)。	実施	スポーツ振興課
39	障がい者スポーツ大会関連事業	新潟県とともに新潟県障害者スポーツ大会を開催するほか、全国大会への選手派遣を行うなど、障がい者スポーツの競技力の向上を図ります。	Ⅲ	【県大会開催】 参加者数 個人競技:7種目・250人 団体競技:5種目・160人 【全国大会派遣】 個人競技 18人派遣	【県大会開催】 参加者数 個人競技:7種目・426人 【全国大会派遣】 個人競技 19人派遣	2	団体競技は個人競技と比べ人数条件があり、参加要件を満たすことができず、想定より下回ったもの。	【県大会開催】 参加者数 個人競技:7種目・250人 団体競技:5種目・160人 【全国大会派遣】 個人競技 18人派遣	スポーツ振興課

基本方針3 スポーツを活かしたまちづくり

(1)スポーツを通じた交流の推進

◆ 基本方針の内容

○新潟市の持つ魅力を活かした、国際・全国大会や合宿の誘致、イベントなどの開催により、スポーツを通じた交流を推進し、地域や経済の活性化につなげます。

◆ 施策指標

指標名	目標(令和5年度)	目標(令和6年度)	目標(令和7年度)	目標(令和8年度)
	実績(令和5年度)	実績(令和6年度)	実績(令和7年度)	実績(令和8年度)
I 主要スポーツイベント参加者数(新潟シティマラソン、新潟シティライド、新潟ヒルクライムのエントリー数)	13,750人	13,750人	13,750人	13,750人
	11,333人	12,037人	13,016人	

基本方針3 スポーツを活かしたまちづくり

(1)スポーツを通じた交流の推進

①文化・スポーツコミッションと一体となった大会・合宿等の誘致	5:計画・目標を上回った 4:計画・目標を少し上回った 3:計画・目標とおり達成 2:計画・目標を少し下回った 1:計画・目標を大きく下回った 0:評価不能
○本市は、国内外および市内主要スポーツ施設との交通アクセスが容易であるほか、通年型のアイスアリーナを有し、宿泊施設が充実しているなど、スポーツ環境が整った都市として、大会・合宿等の受け入れ実績を積み重ねてきました。これまでに、フィギュアスケートロシア代表や空手フランス代表、女子硬式野球の日本代表など、国内外ナショナルチームの合宿等の誘致により、競技団体等から高評価をいただいています。 ○合宿・大会の誘致やスポーツイベントは、多くの誘客を実現するとともに、より多くの人々がスポーツを楽しむことで、様々な人や地域との交流を深めることができます。また、市民のスポーツへの関心を高め、地域の活性化、経済効果にもつながるものです。 ○国や、日本オリンピック委員会、中央競技団体等の情報を収集し、県や「新潟市文化・スポーツコミッション」と連携をとりながらナショナルレベルの大会や合宿等の誘致を積極的に推進します。	

◆ 主な事業

	事業名	事業概要	対応する施策指標	R7計画・目標	R7実績	自己評価	理由・要因	R8計画・目標	担当
再掲 12	新潟シティマラソンの開催 (再掲)	フルマラソン、ファンランに加え、年齢や障がいの有無に関わらず参加できる種目、ユニバーサルランを実施することで、市民の健康保持・増進を図ります。また、萬代橋や榎谷小路などの市街地や新潟ならではの水辺を望めるコースとすることで、本市の魅力発信や交流人口の拡大を図ります。	I	エントリー者数 ・マラソン:9,000人 ・ファンラン:3,000人 ・ユニバーサルラン :400人	エントリー者数 ・マラソン:8,448人 ・ファンラン:4,017人 ・ユニバーサルラン :551人	4	佐渡トキマラソンとの連携を継続するとともに、新たに海外向けエントリーサイトやふるさと納税枠を導入するなど、参加機会の拡充や広報の強化を図ったことで目標を達成することができたため。 (県外・海外からの参加者は過去最高を記録)	エントリー者数 ・マラソン:9,000人 ・ファンラン:3,000人 ・ユニバーサルラン :400人	スポーツ振興課
再掲 14	自転車活用事業 (再掲)	新潟シティライド、新潟ヒルクライムを開催し、自転車を活用しながらスポーツの振興に寄与するとともに、市民の健康保持・増進、交流人口の拡大を図ります。	I	【シティライド】 大会休止(予定) 【ヒルクライム】 大会休止(予定)	大会廃止	0	自転車活用事業として、シティライドやヒルクライムを開催してきたが、年々参加者が減少傾向にあるほか、実行委員会や競技運営に携わる人材も減少するなど、体制を維持、継続することが困難となったため。	【シティライド】 エントリー者数 ロングライド:600大 ミドルライド:400大 ショートライド:50大 【ヒルクライム】 エントリー者数 600大	スポーツ振興課
40	国際・全国大会等誘致に向けた合宿受入事業	トップレベルの技に市民が触れる機会を提供することでのスポーツの振興や、来訪者によるにいがたの魅力を発信することでの交流人口の拡大や地域活性化を図るため、国際・全国規模の大会やオリンピック・パラリンピック競技大会など様々な国際大会におけるナショナルチーム事前合宿を誘致します。	—	国際・全国規模の大会数 1 ナショナルチーム合宿数 2	国際・全国規模の大会数 27 ナショナルチーム合宿数 1	4	全国規模の大会誘致数とナショナルチームの合宿数は、市文化・スポーツコミッションを通じた、中央の競技団体への働きかけが功を奏し目標を達成した。	国際・全国規模の大会数 1 ナショナルチーム合宿数 2	スポーツ振興課
41	国際ユースサッカーin新潟の開催	競技力向上と国際交流を目的に開催するU-17代表の国際大会です。平成9年度から開催されており、過去23回の開催を誇り、海外2チーム、日本代表、新潟選抜の4チームによる総当たり戦で競われます。	—	開催回数 1回	開催回数 1回	3	県や県サッカー協会と連携し、予定とおり開催することができた。	開催回数 1回	スポーツ振興課

基本方針3 スポーツを活かしたまちづくり

(2)スポーツの魅力を活かした愛着の醸成と賑わいづくり

◆ 基本方針の内容

○地元プロスポーツチームをはじめ、スポーツ団体などとの連携により、観戦や社会貢献活動などを通じスポーツに親しみ新潟市への愛着を深めてもらうとともに、賑わいのあるまちづくりにつなげます。

◆ 施策指標

	指標名	目標(令和5年度)	目標(令和6年度)	目標(令和7年度)	目標(令和8年度)
		実績(令和5年度)	実績(令和6年度)	実績(令和7年度)	実績(令和8年度)
I	主要スポーツイベント観戦者数(ホームタウンチームのホーム戦の1試合あたり観戦者数)	15,700人	17,500人	19,500人	21,600人
		22,501人	24,192人	24,964人	
II	主要スポーツイベント参加者数(新潟シティマラソン、新潟シティライド、新潟ヒルクライムのエントリー数)	13,750人	13,750人	13,750人	13,750人
		11,333人	12,037人	13,016人	

基本方針3 スポーツを活かしたまちづくり

(2)スポーツの魅力を活かした愛着の醸成と賑わいづくり

①地元プロスポーツチームとの連携								
○本市は、スポーツの振興と青少年の健全育成、市民の連帯感の醸成と地域の活性化を目的にアルビレックス新潟をはじめとした地元プロスポーツチームを支援しています。その存在は、市民に大きな夢や感動を与え、国内外に本市の魅力を大きく発信しています。								
○また、地元プロスポーツチームのホームタウンとして、まちの景観にスポーツを取り入れるなど、スポーツの機運醸成や郷土への愛着を深めることへと繋がります。								
○競技力の向上にも貢献し、世界に羽ばたくトップアスリートも誕生しています。プロスポーツチームなどトップアスリートの技術や経験を地域に還元することは、地域スポーツの活性化と裾野の拡大、次世代アスリートの発掘・育成などにもつながります。このような好循環の創出に向け、地元プロスポーツチームと地域との連携・協働を推進します。								
5:計画・目標を上回った 4:計画・目標を少し上回った 3:計画・目標とおり達成 2:計画・目標を少し下回った 1:計画・目標を大きく下回った 0:評価不能								

◆ 主な事業

事業名		事業概要	対応する施策指標	R7計画・目標	R7実績	自己評価	理由・要因	R8計画・目標	担当
42	スポーツ観戦招待事業	小中学生とその保護者を対象に、地元プロスポーツチームの試合を観戦することにより、夢と感動を共有し、青少年の健全育成とスポーツ文化の醸成を図ります。	I	サッカー観戦招待者数 8,700人 野球観戦招待者数 700人 バスケットボール観戦招待者数 200人	サッカー観戦招待者数 7,875人 野球観戦招待者数 608人 バスケットボール観戦招待者数 284人	2	新規層獲得のため、広報内容の見直しや来場者プレゼント等の充実を図った一方、物価高騰等によりコストを圧迫したため、招待可能人数が減少し、当初の目的を下回ったため。	サッカー観戦招待者数 8,700人 野球観戦招待者数 700人 バスケットボール観戦招待者数 200人	スポーツ振興課
	子どもスポーツふれあい促進事業(再掲)	小学生を対象にしたサッカー教室の開催、中学生とその指導者に対して地元プロ選手から指導等を実施してもらい、心身の健全育成と競技力・技術力等の向上を図ります。	I	サッカー教室参加者数 300人 サッカー指導者派遣数 90人	サッカー教室参加人数 342人 サッカー指導者派遣人数 95人	4	サッカー教室については、隣接する2区合同での開催とし、申込人数439名、参加人数342名と想定を大きく上回った。また、公式戦と同日開催とすることで、「観るスポーツ」との相乗効果を図ることができた。指導者派遣については、中長期的な指導体制に加え、地域クラブへの移行も考慮したクラブチームへの派遣回数も増加したことにより、現状に適した派遣活動を実施したことで、計画より微増した。	サッカー教室参加者数 300人 サッカー指導者派遣数 94人	スポーツ振興課

②スポーツを活用した賑わいづくり								
○地元プロスポーツチームの試合観戦や、新潟シティマラソンをはじめとするスポーツイベントの開催等により、街なかへの回遊性を高めるなど、交流人口の拡大及びまちの賑わい創出に取り組みます。								

◆ 主な事業

事業名		事業概要	対応する施策指標	R7計画・目標	R7実績	自己評価	理由・要因	R8計画・目標	担当
再掲12	新潟シティマラソンの開催(再掲)	フルマラソン、ファンランに加え、年齢や障がいの有無に関わらず参加できる種目、ユニバーサルランを実施することで、市民の健康保持・増進を図ります。また、萬代橋や榎谷小路などの市街地や新潟ならではの水辺を望めるコースとすることで、本市の魅力発信や交流人口の拡大を図ります。	II	エントリー者数 ・マラソン:9,000人 ・ファンラン:3,000人 ・ユニバーサルラン:400人	エントリー者数 ・マラソン:8,448人 ・ファンラン:4,017人 ・ユニバーサルラン:551人	4	佐渡トキマラソンとの連携を継続するとともに、新たに海外向けエントリーサイトやふるさと納税枠を導入するなど、参加機会の拡充や広報の強化を図ったことで目標を達成することができたため。(県外・海外からの参加者は過去最高を記録)	エントリー者数 ・マラソン:9,000人 ・ファンラン:3,000人 ・ユニバーサルラン:400人	スポーツ振興課
	自転車活用事業(再掲)	新潟シティライド、新潟ヒルクライムを開催し、自転車を活用しながらスポーツの振興に寄与するとともに、市民の健康保持・増進、交流人口の拡大を図ります。	II	【シティライド】 大会休止(予定) 【ヒルクライム】 大会休止(予定)	大会廃止	0	自転車活用事業として、シティライドやヒルクライムを開催してきたが、年々参加者が減少傾向にあるほか、実行委員会や競技運営に携わる人材も減少するなど、体制を維持、継続することが困難となったため。	【シティライド】 エントリー者数 ロングライド:600人 ミドルライド:100人 ショートライド:50人 【ヒルクライム】 エントリー者数 600人	スポーツ振興課
43	プロ野球招致推進事業	官民が一体となった「プロ野球新潟招致委員会」により、プロ野球公式戦を招致することで、スポーツの振興や交流人口の拡大・地域活性化、本市を全国にアピールすることができます。プロ野球の観戦機会を提供するとともに、開催気運醸成のため、プロ野球監督や選手OBによるトークイベント等を開催します。	—	プロ野球公式戦開催数 1試合 トークイベント等の開催数 1回	プロ野球公式戦開催数 1試合 県民応援メッセージボードの開催数 1回	3	県や関係団体と連携し、プロ野球の観戦機会の提供とともに、開催機運の醸成を図ることができた。	プロ野球公式戦開催数 1試合 トークイベント等の開催数 1回	スポーツ振興課